



内科上半期お疲れ様会

研修医通信 vol.17

被災地の現状

2011年、今年の堺病院研修医第1号として紀南病院を訪れました。今年も研修を受け入れて下さり、紀南病院の方々、本当にありがとうございます。紀南での研修の感想を一言で言うと「短かった」というのが正直なところです。病棟の患者さんを通しての上級医の先生の熱心な指導、往診、診療所・神島研修、飲み会でのetosetora。その他にも、ここには豊富なネタがそろいすぎていて、1ヶ月という短期間で何を学ぶか悩む程でした。ここには雄大な大自然、うまい食事、温かい先生方、患者さん、何でもそろっていました。ここで研修できて本当によかったです。ありがとうございました。

(市立堺Hp 井村 慎志)



内科Drみんな大好きな
ラーメン屋新宮亭のおやっさん@二次会

紀南病院で聞いた印象的な言葉に、「田舎というだけで標準治療が受けられないというのがないようにしたい」とか、「地域医療なめんなよ」といったものがあります。もろもろの環境をハングリー精神の源として泥臭く努力していく、そんな紀南魂に触れて感化されている今日このごろです。(東大病院 山崎広貴)



酔ったTJ先生と、からまれる山崎先生

伊勢に帰り一週間、紀南での研修が懐かしく感じられる頃合いになってきました。ひと月前だった研修初め、医局のソファに腰かけて研修医新聞を読んでいたのを思い出すと、月日の流れを感じます。研修中は、医学はもちろんの事、様々な経験をさせて頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。紀南には、エネルギーに満ちた先生がたくさんみえ、とくに内科では毎朝8時から検討会があり、個々の症

例についてアドバイスを頂けます。検討会には全員の先生が参加されており、症例+αの事を教えてくださったりもして、書物からでは学びきれない知識まで頂けます。また研修を通して、医学としての完治ばかりではなく、患者さんそれぞれに合った到着点を見つけてゆく事の大切さも教わりました。

そして印象的だった事、濃紺の海にそびえ立つ桶が崎、白いしぶきをたて岩盤を潤すさざ波の音は、時間を忘れるほどでした。

伊勢に帰った今、再び日赤時間が流れています。研修医中に学ぶべき事は多く、これからも勉強に勉強を重ね頑張ってください、一人前の医師として、こちらに戻ってこれる日を楽しみに。

(山田赤十字Hp 門口 紅)

紀南へ来てから3カ月。先日、東京に久しぶりに戻ったとき、東京の街並みを紀南の人間として客観的に見ている自分があることに驚きました。三重県への愛着も出てきて、すっかり「紀南の子」気分です。

東京生活を振り返ってみて真っ先に思うのは、便利さにかまけて努力を怠っていた自分の愚かさです(たとえば、無数のレクチャーを流し聞きするだけで、一つ一つを大切にしようとしていなかった)。都会に住む人間にとって、「都会にいること」そのこと自体がもたらす安心感・満足感というのは多かれ少なかれあるように思いますが、それはともすると努力を忘れることにつながります。

改めまして。2年目研修医藤原と申します。

熱くてナイスな内科の先生たちにお会いし、また色々な事を教えてもらいたくて、被災の影響残るこの地に再び訪れました。

紀南に着き、一番に師匠であるTJ先生をご飯に誘ったところ、第一声が「俺は今豪華な食事食べてんねや!以上!」でした。正直もう帰ったろうかと思いました。

U先生はカンファ中に相変わらず優しい口調で極上のきつい一言を飛ばしてきます。アメとムチの特にムチが上手な方です。私の性格を見抜いているのかとことん叩き、頑張りようとい気持ちにさせてくれます。非常に尊敬する良い先生です。

真面目な話に戻ると、現在は、やや被災の影響も落ち着いてきた状態と言われています。しかし、先生方はその被災時の過酷な業務をこなされた直後です。現在私たち研修医の働きで猫の手にも届かぬ業にでも助けになれば幸いです。一体いかほどの働きができるのかはわかりません。自分が思っている以上に微力であろうとは考えます。しかし精一杯1か月間頑張りぬきたいと自分のためにも思っています。

編集担当 藤原 拓海